

■ 概況

2/15~2/21のNYMEX・WTIは、61.34~61.90ドルの狭い範囲で推移した。

2月22日は、1日遅れの米エネルギー情報局(EIA)の週報で、原油在庫が市場の増加予想に反して前週比160万バレル減少となったこと、WTI受渡点クッシングの原油在庫も同270万バレル減少したことなど、米国の堅調な石油需要を背景に反発した。4月限の終値は前日比1.09ドル高の62.77ドルだった。

週末23日は、前日からの流れに加え、サウジのファリハ・エネルギー相の、原油在庫は減少を続けるとの発言、リビアのエルフィール油田(日産約7万バレル)がストライキにより閉鎖されたとの報道があり、世界的な需給の引き締め感から続伸した。なお、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数799基(前週比1基増加)であった。3月限の終値は前日比0.78ドル高の63.55ドルだった。

週明け26日は、午前中ドル高による原油先物の割高感から売りが先行したが、サウジのファリハ・エネルギー相の同日の1~3月産油量は生産上限をはるかに下回り、輸出も日量700万バレル未満となるとの発言が伝わり、3営業日続伸した。4月限の終値は前週末比0.36ドル高の63.91ドルだった。

27日は、同日夕と翌日の米国官民の原油在庫週報における積み増し観測、ピロルIEA事務局長の2019年中に米国原油生産がロシアを抜き世界最大になるとの発言など、供給過剰感が再燃、ドル高による原油先物の割高感、米国株値値下がりによるリスク回避姿勢もあって、4営業日振りに反落した。4月限の終値は前日比0.90ドル安の63.01ドルだった。

28日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫の市場予想を上回る増加、ガソリン在庫の市場予想に反した増加等を背景に続落した。4月限の終値は1.37ドル安の61.64ドルだった。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週61.40~62.20ドルの範囲で推移した。2月22日61.70ドル、23日63.10ドル、26日64.10ドル、27日64.20ドル、28日は63.10ドルで推移した。

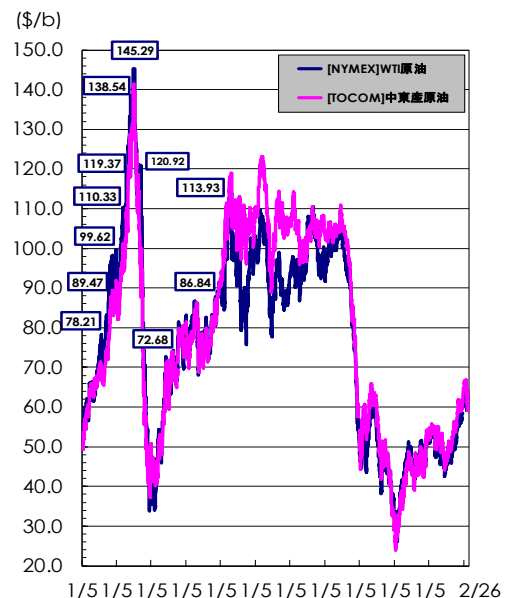
為替は、前週106.29~107.54円の範囲で推移した。2月22日107.52円、23日107.01円、26日106.92円、27日106.86円、28日は107.37円で推移した。

財務省が27日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格は、46,412円/klとなり、前旬を560円上回った。ドル建てでは66.87ドルで前旬比1.54ドル高。為替レートは1ドル/110.33円。

主要元売会社の3月第1週に適用する卸価格は、ガソリンが1.0円の値上げ、軽油が0.5~1.0円の値上げ、灯油が1.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、2月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は同0.1円の値下がりだった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は2週振りの値下がり、灯油は27週(6ヶ月)振り(18週ベース)の値下がりだった。この週(2月第4週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンが1.0~1.5円の引き下げ、軽油が1.0~1.5円の引き下げ、灯油が据え置きから1.0円の引き下げに分かれた。

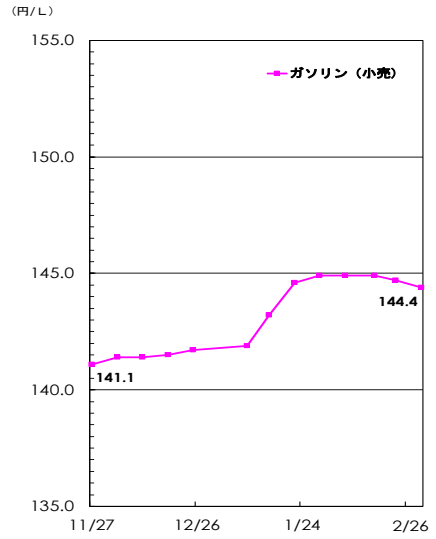
原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	2/18 ~ 2/24	3,643	▼ -36	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.0	▼ -0.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	2/24	11,733	▼ -662	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/26	63.65	▲ 1.44	▲ 8.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/26	63.91	▲ 2.01	▲ 9.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月上旬	66.87	▲ 1.54	▲ 11.57
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,412	▲ 560	▲ 6,957
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.33	▲ 1.24	▲ 3.09
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/26	107.92	▼ -0.62	▲ 5.26



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/18 ~ 2/24	1,067 ▲ 139	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	909 ▼ -20	▼ -	
	輸出	"	146 ▲ 62	▼ -	
	在庫	2/24	1,647 ▲ 11	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/20 ~ 2/26	58.1 ▼ -1.2	▲ 7.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/20 ~ 2/26	55.8 ▲ 0.5	▲ 2.7
		(TOCOM/中部)	2/26	56.5 ➡ 0.0	▲ 3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/26	144.4 ▼ -0.3	▲ 13.6	

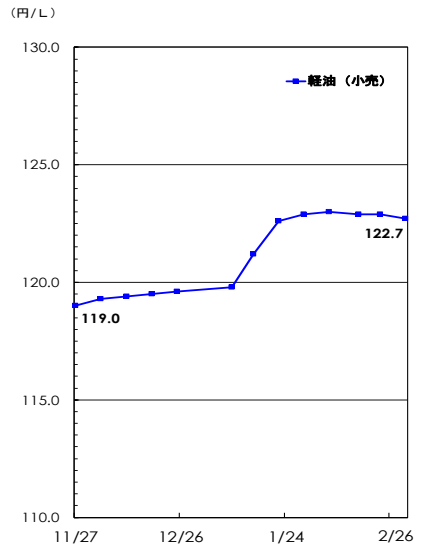
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

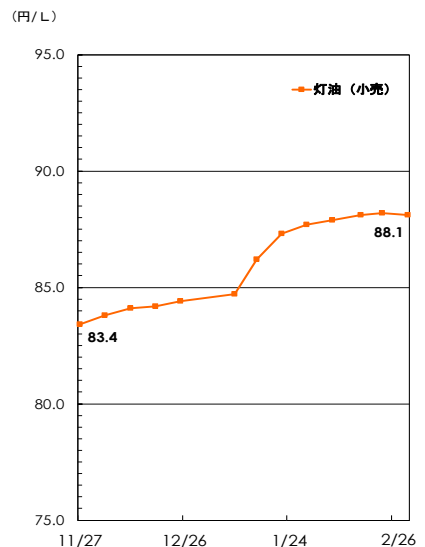
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/18 ~ 2/24	807 ▲ 21	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	720 ▲ 60	▲ -	
	輸出	"	136 ▼ -66	▼ -	
	在庫	2/24	1,192 ▼ -49	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/20 ~ 2/26	59.4 ▼ -1.3	▲ 9.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/20 ~ 2/26	60.8 ▲ 0.8	▲ 14.8
		(TOCOM/中部)	2/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/26	122.7 ▼ -0.2	▲ 12.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/18 ~ 2/24	454 ▼ -84	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	509 ▼ -26	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -25	▼ -	
	在庫	2/24	1,199 ▼ -55	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/20 ~ 2/26	64.5 ▲ 0.2	▲ 13.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/20 ~ 2/26	61.7 ▼ -0.7	▲ 12.5
		(TOCOM/中部)	2/26	60.0 ▼ -4.0	▲ 11.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/26	88.1 ▼ -0.1	▲ 10.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月28日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比300万バレル増加と市場予想(同210万バレル増)を上回る積み増し、ガソリン在庫も同250万バレル増加と市場予想(同20万減)に反して増加したこと、また、外為市場でのドル高進行、月末の利益確定売り、中・印・日の経済指標の軟化もあって、続落した。なお、同日発表のEIA月報では、2017年11月の米国原油生産量は日量1,006万バレルに上昇修正されたが、12月は同995万バレルに下方修正された。4月限の終値は前日比1.37ドル安の61.64ドル、5月限の終値は前日比1.43ドル安の61.47ドルだった。

EIAによると、2月26日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値下がり1ガロン2.548ドル(72.6円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.0セント値下がり3.007ドル(85.6円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年2月18日～2月24日に休止したトッパー能力は12.0万バレル/日で、前週に対して横ばいであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は364.3万klと、前週に比べ3.6万kl減少。前年に対しては27.2万klの減少。トッパー稼働率は93.0%と前週に対して0.9ポイントの減少、前年に対しては0.2ポイントの増加となった。

万kl(対前週4.9%減)、軽油72.0万kl(対前週9.1%増)、A重油30.7万kl(対前週7.0%増)、C重油30.4万kl(対前週12.0%減)。

生産は前週に比べて灯油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/15.0%増、ジェット/28.0%増、灯油/15.6%減、軽油/2.7%増、A重油/4.6%増、C重油/12.4%増。今週のC重油の輸入は6.2万kl(前週比3.8万kl増)。軽油の輸出は13.6万kl(前週比6.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェット、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は90.9万kl(対前週2.1%減)と2週連続で前週比で減少、2週振りに前年比で減少となり、8週連続で100万klを下回った。ジェット2.3万kl(対前週5.6%増)、灯油50.9

(単位:千KL)

	今週 (2/18 ~ 2/24)	前週 (2/11 ~ 2/17)	前週比	
ガソリン	909	929	▼ -20	(-2%)
ジェット燃料	23	22	▲ 1	(5%)
灯油	509	535	▼ -26	(-5%)
軽油	720	660	▲ 60	(9%)
A重油	307	287	▲ 20	(7%)
C重油	304	345	▼ -41	(-12%)
合計	2,772	2,778	▼ -6	(-0%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月24日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、すべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは164.7万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては6.4万kl少ない。

灯油は119.9万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては21.9万kl少ない。

軽油は119.2万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては41.7万kl少ない。

A重油は67.8万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

C重油は188.4万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては10.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (2/24)	前週 (2/17)	前週比	
ガソリン	1,647	1,636	▲ 11	(1%)
ジェット燃料	785	724	▲ 61	(8%)
灯油	1,199	1,254	▼ -55	(-4%)
軽油	1,192	1,241	▼ -49	(-4%)
A重油	678	682	▼ -4	(-1%)
C重油	1,884	1,875	▲ 9	(0%)
合計	7,385	7,412	▼ -27	(-0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月20日から2月26日の原油価格は、前週対比で値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、2月20日～2月26日までの間、ガソリン111～112円台で値下がり、軽油59～60円台で値下がり、灯油64円台で横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン116～120円台で大きく値下がり、軽油63円台で横ばい、灯油72～73円台

で上昇後値下がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン109～110円台で出入り後値上がり、軽油60～62円台で値上がり、灯油60～65円台で大きく値下がり後やや上昇し推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは1.0円の値上げ、軽油は0.5～1.0円の値上げ、灯油は1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上ガソリン・先物ガソリン・陸上灯油・海上灯油・先物軽油が値上がり、陸上ガソリン・先物灯油・陸上軽油・海上軽油が値下がり大きく分かれた。

3月第1週(3月1日～3月7日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月20日～2月26日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.2円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は1.3円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は0.8円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。

3月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリンが1.0円の値上げ、軽油が0.5～1.0円の値上げ、灯油が1.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

	今週 (2/20 ~ 2/26)	前週 (2/13 ~ 2/19)	前週比
レギュラー	58.1	59.3	▼ -1.2
灯油	64.5	64.3	▲ 0.2
軽油	59.4	60.7	▼ -1.3
	今週 (2/20 ~ 2/26)	前週 (2/13 ~ 2/19)	前週比
レギュラー	55.8	55.3	▲ 0.5
灯油	61.7	62.4	▼ -0.7
軽油	60.8	60.0	▲ 0.8

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.2	▲ 0.5	▼ -0.3
灯油	▲ 0.2	▼ -0.7	▼ -0.3
軽油	▼ -1.3	▲ 0.8	▼ -0.3
A重油	▼ -1.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の144.4円、軽油は同0.2円安の122.7円、灯油は同0.1円安の88.1円だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は2週振りの値下がり、灯油は27週(6ヶ月)振り(18%ペース)の値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは1県、横ばいは7府県、値下がり39都道府県だった。全国最安値は徳島県の138.7円(同0.4円安)、次が埼玉県の140.2円(同0.4円安)、最高値は沖縄県の152.9円(同0.7円安)だった。最も値上がりしたのは、0.1円高の香川県(145.6円)だった。最も値下がりしたのは、1.7円安の山口県(142.0円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、ガソリンが1.0～1.5円の値下げ、軽油も1.0～1.5円の値下げ、

灯油が据え置きから1.0円の値下げとなり、2週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。次週(3月5日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

	今週 (2/26)	前週 (2/19)	前週比	直近高値
レギュラー	144.4	144.7	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	88.1	88.2	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	122.7	122.9	▼ -0.2	08/8/4 167.4

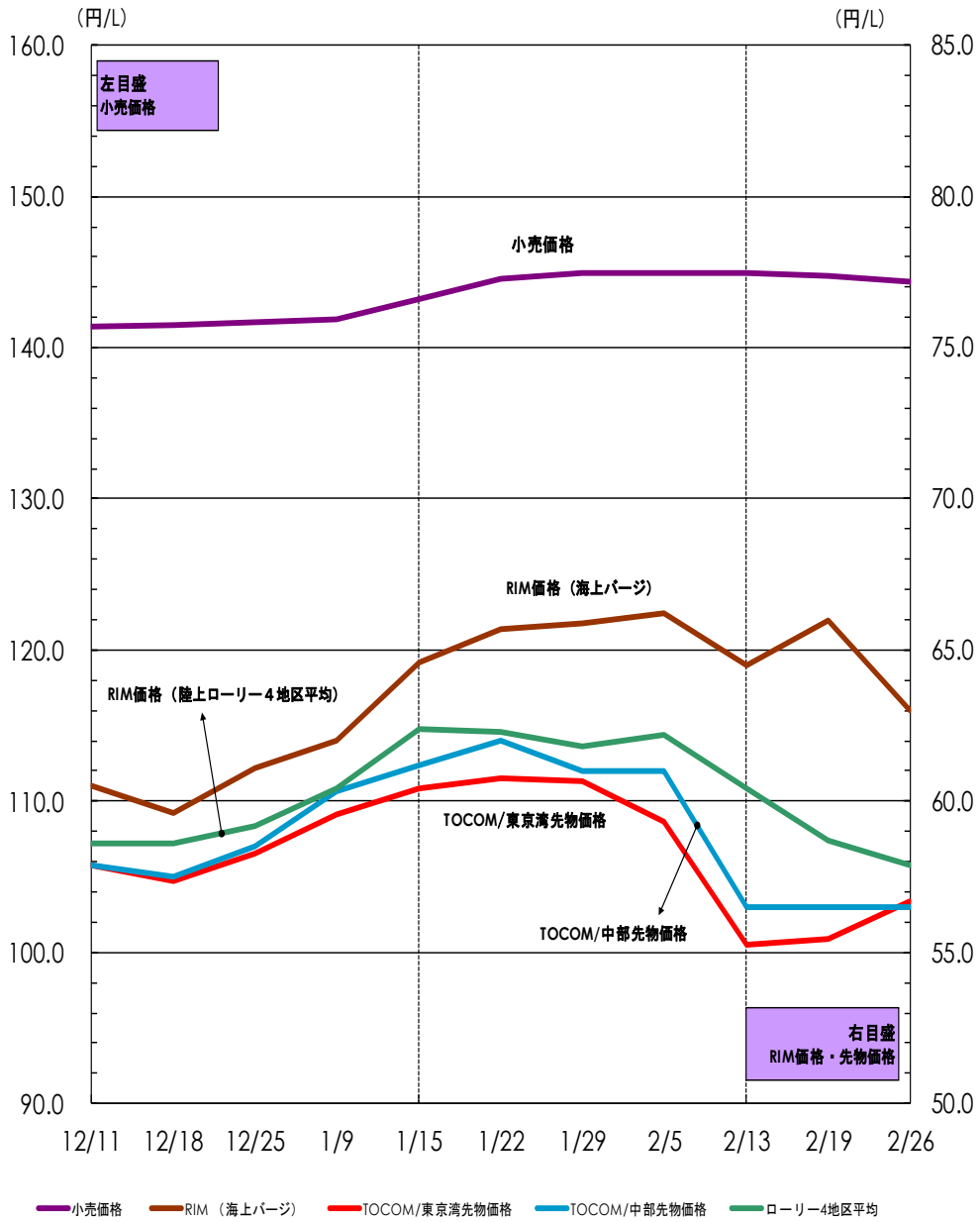
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/12/11 ~ 2018/2/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第46号)の公表は、3/9(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。